下五俵の板

一方に一俵くらべ
二つなるとき
るみへかくのごとし
紛ちかのごく
ゆて五五俵よ
撰六俵のそのと
あるべし 板五五六三十として二つよ
るわして十五俵ともろもろ

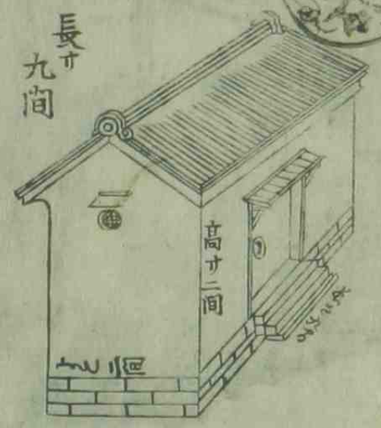
○長谷の下五俵と狭筆
長谷の下俵と板ゆつむゆ上しくき
ゆえとあり一俵よりおしばくべ
下のそへ出俵上のとあり八俵を
出ろう何ほどそやとい
答へ 二百十二俵とす
先八せん下の三十俵を俵とへ

○見一の割声 筆とかけ算の法

○見一五頭作九 これも十五か十九までのそろくるを要ずる
月曜の筆く百の上のそ千の上ゆそなるも
見一五五拙九一五五拙九一五五拙九

長崎大学附属図書館経済学部分館

藏る俵を入る積算



高サ二間横二間の蔵と云蔵俵ふ程入ると云法の二千又百九十二俵入と云法と高サ二間と横二間とかろれば二三坪と成これ長サの九間とくまば四九三十六坪と成これ一坪ふ俵と入る積の七十二とかろれば弐千又百九十二俵入と云なり又一坪ふ六十二俵入と云法もかり此法ふて三十六坪をかろれば二千又十俵となるなり右ふ成れも蔵ふより又積出すよりてちがひかりとの人も大ろうかくのごとくなるべし

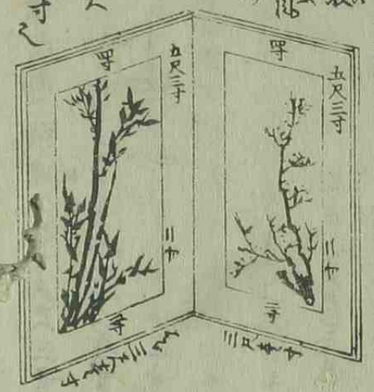
○俵減ろうの事

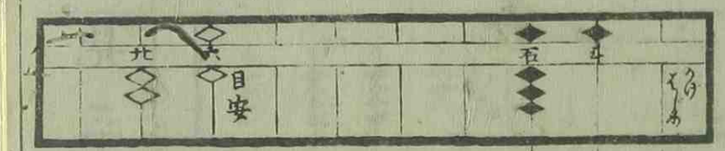
米八百又十石かり但し一石ふ付三斗ずつかんぶんふ成右の斗めかり減ると云斗めハ百十石ふ五斗かりと云ふ

此法ハ先一石と定ふて此内三斗引ばハ九斗七升と成これと右の八百又十石ふかろれば斗めハ百九十石ふかろれば斗めハ百九十石ふかろれば斗めハ百九

五千三百七十俵と米四斗七升
○扨又薪の内小四斗八升の俵合
六百俵ありて又三斗二升入の俵六百
俵ありて又四斗俵六百俵ありて以上
千八百俵ありて是と四斗八升俵と
付き代銀十三匁ずつとかめば六三貫
六百四斗八升俵の引あしらい如何
ありてかとふ
答ふらく十九貫五百目也
仕法は四斗八升俵六百俵は十三匁と
かろれば七貫八百目となる又四斗俵
六百俵は十三匁とかろれば銀七貫八百目
となる扨又右小四斗八升とを合せ四斗
ずつ割ば十二俵に成十二とあて七貫八

百目となれば銀六貫五百目あるべし
又三斗俵は六百俵ありて十三匁と
かろれば七貫八百目となる又四斗八升と
右を合せ三斗二升と成るべしれば十五匁と
成れば十五匁七貫八百目となれば銀五
貫二百目とあるべし三口合せて
代銀十九貫五百目あるべし
屏風と絵と金積の事





二百廿壹石を
二十六人割んと思ふ時は
仕法三と成て上の五と目安の六とを合せて
五六三十 とあるべし仕法三と引べし
仕法六と成上の八と目安の六とを合せて 六八四十八
故に九と成つぎは三と成 引べし
扨仕法一と 三一天俵五 とあるべし一と五つあるべし
見二安天俵九三 とあるべし二を合べし
扨仕九と目安の六とを合せて六九五十四次の九を小
いれば 扨一俵三 とあるべし九の内小一と成べし
二とすべしべし四人成仕法八と成つぎの九と六と成べし

二十六人割ば八石五斗ずつとなる
答と又かろい如ハ
仕法て上の五と目安の六とを合せ 五六三十
とあるべし仕法三十八人
仕五と目安の二とを合せ 二五十 とあるべ
又仕一又つあるべし○扨又仕法て上の八と目安の
六とを合せ 六八四十八 とあるべし仕法四十八
以の九へ八人あるべし
仕八と目安の二とを合せ 二八十六 とあるべ
仕八を十六人ずつ八へ六とくるべあるべし
九との二百廿壹石あるべし

長崎大学附属図書館経済学部分館　武藤文庫所蔵

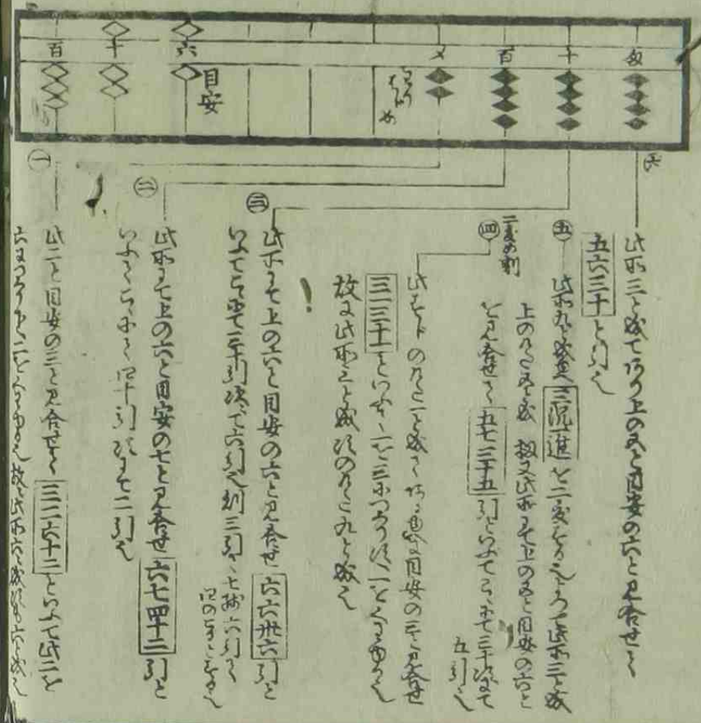
二枚屏風の紙中の巾五尺三寸
横弐尺六寸と面方合せて六尺二寸
中の押絵のもつとも広のぶく小三寸
ぶくの金と金つもり〳〵三寸ぶく七十
六枚に分り出入く生立で二寸を
引て残る八寸に成見ゆる天三寸と
かゝれば出方出坪を掛又上の巾寸と
下の二寸とを合せて六寸ゆゑ六寸の
引のもつて二尺二寸と面方ゆゑ出尺出寸
ゝれと六寸ゆかゝれば二百六十出坪と成
二百ゆゑ合せて六百八十八坪ゆゑ是を
三寸ぶくと左右ゆゑ〳〵九坪を
是ゆゑ右六百八十八坪とゝれば

同 六枚屏風の算

六枚屏風の巾六尺を弐尺巾寸
ゆゑ屏風〳〵織物と用ひ中の絵の
ところと地金ゆゑ三寸ぶくの
仕切となるべし

見三

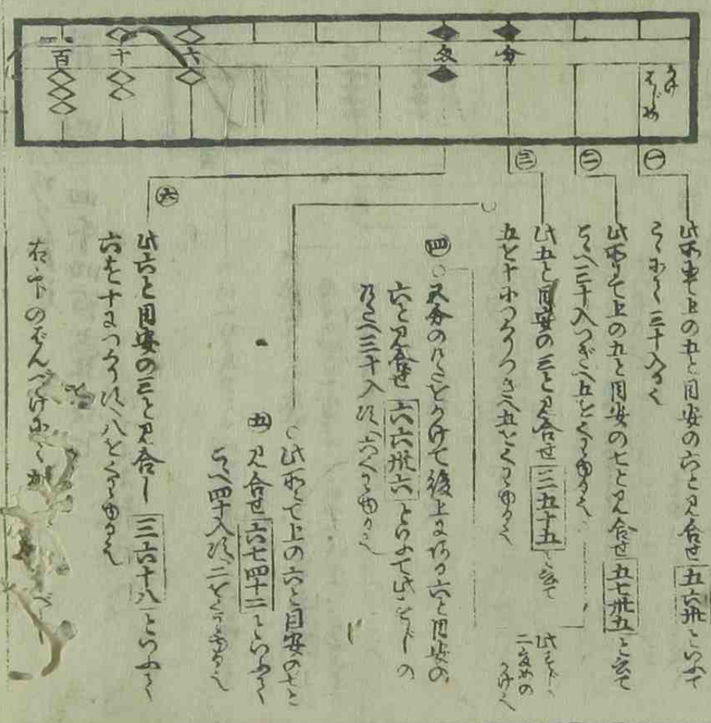
武藤文庫四拾分を
三百七十六ゆゑ六枚と思ふ時へ



(一)此巾三と成て巾上の弐と目安の六と足合せ〳〵
五六三十と引く
(五)此九と成三流進と二変ゆゑ巾上の弐と巾三成
上の弐と弐成 数又此巾の上の弐と目安の六と
足合せ〳〵五七三十五引てゆゑ五引く
(四)此上下の弐と二成〳〵ゆゑ巾の上と目安の三と足合せ
三三三十と引く〳〵三ゆゑ引て二と成
故に此巾と成て弐の弐と成〳〵
(三)此巾の上の六と目安の六と足合せ六六廿六引と
引て残る三引成で六引く外三引く上の弐と
引て残る三引〳〵
(二)此巾の上の六と目安の七と足合せ六七四十二引と
引て残る二引〳〵
(一)此二と目安の三と足合せ〳〵三六十二と引て此三と
成ゆゑ〳〵

六枚屏風の算

三百七十六ゆゑ
六枚屏風の算
是を文かゝるゆへ



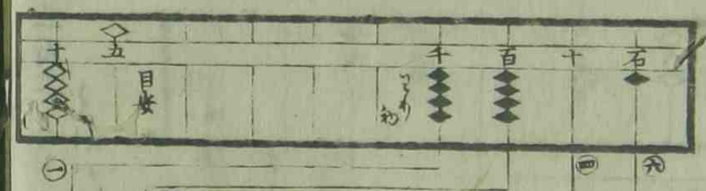
(一)此巾三上の弐と目安の六と足合せ五六廿と引て
残る〳〵三十入ゆゑ
(二)此巾の上の弐と目安の七と足合せ五七廿五と引て
残る〳〵三十入ゆゑ五と成
(三)此五と目安の三と足合せ三五十五と引て
五と十ゆゑ〳〵五と成ゆゑ
(四)又巾の上と目安の六と足合せ六六廿六と引て
残る〳〵三十入ゆゑ六と成
(五)此六と目安の七と足合せ六七四十二と引て
残る〳〵四十入ゆゑ二と成ゆゑ
(六)此六と目安の三と足合せ三六十八と引て
六を十ゆゑ〳〵八と成ゆゑ
右下の算ゆゑ

長崎大学附属図書館経済学部分館　武藤文庫所蔵

三寸高七百五十六坪八分と入
とりの法はんこでの二尺を寸ホ六牧
あれば六をとりけ合せ一丈二尺六寸と成
此内ホてゑ方の五の角ろ乗すれば
ゑホーしく又寸引除しく寸丈二尺
一寸巾ろ尺ホるさゑ六才とかれば
六千七百七十六坪あり尺と三寸高
九坪ホ〻〻これば七百五十二牧八分
八りとまるてなり
但一三寸ぐらい九坪といへるハ一寸
四方と一坪として三寸四方ものこと
三三がゑ坪と成を云〻
○又二間四方巾ホと間外〻ホ
金箱を置ものゝ何程入ぞと問
答へ〻三寸高六千四百牧入〻

見

四千四百壹牧と
四十五丈ゑ割方へ



此ホ九成ゆえに四尺一進と
とりかは四のこう
上八ゑ成ひとの八と目安の
五とゑ合せ五八四十と
いかく此ホ七ゝとらゆく
目安の四ゑ合せ
四三七十二とのひて
三と七をつゝかゝ
二七ゝゝゆゝ故此ホ七ゝ成ひと成〻

此ホて上の七と目安の七とゑ合せ五七卅五引〻ゝて
ゝ七引ばかく五引〻故此ホ三と成〻

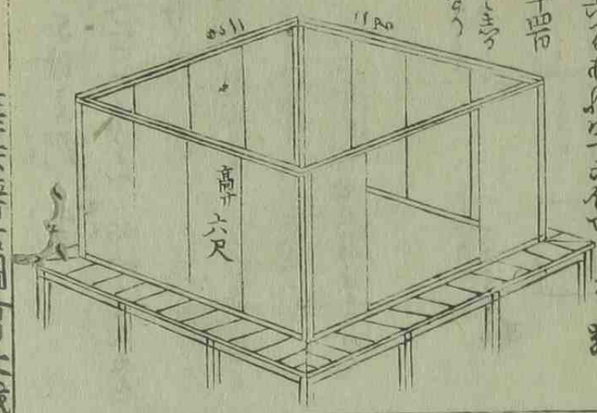
此ホ三ゝ成〻有ゆへ目安の四とゑ合せ四三七十二
とのゝ七此ホ三とゝゝゝ三とゝゝゝ三とゝ成ひのゝ七ゝ成〻

此ホかく上の九と目安の七とゑ合せ五九四十五引と
いてゝ七ゝて四十引ゝて五九ゝ故此ホ三ゝ成ひ五ゝ成〻
故ゆ此ホ九ゝ成ひのゝ八ゝ成

見四無法作九四と
とりて四とゝかゝつゝかゝにとゝゝゝ

先ゝ高さ六尺と箱のゝで三寸ホ〻〻
割ば二十牧〻成を左右ゝ置て
うけ合ゝ六三ゝ四百牧〻成れ六尺
四方の箱のゝゝゝこれと裏表ホ〻〻
十六ゝあれば千六合せ〻〻で数

六千四百
牧とまゝ
なり

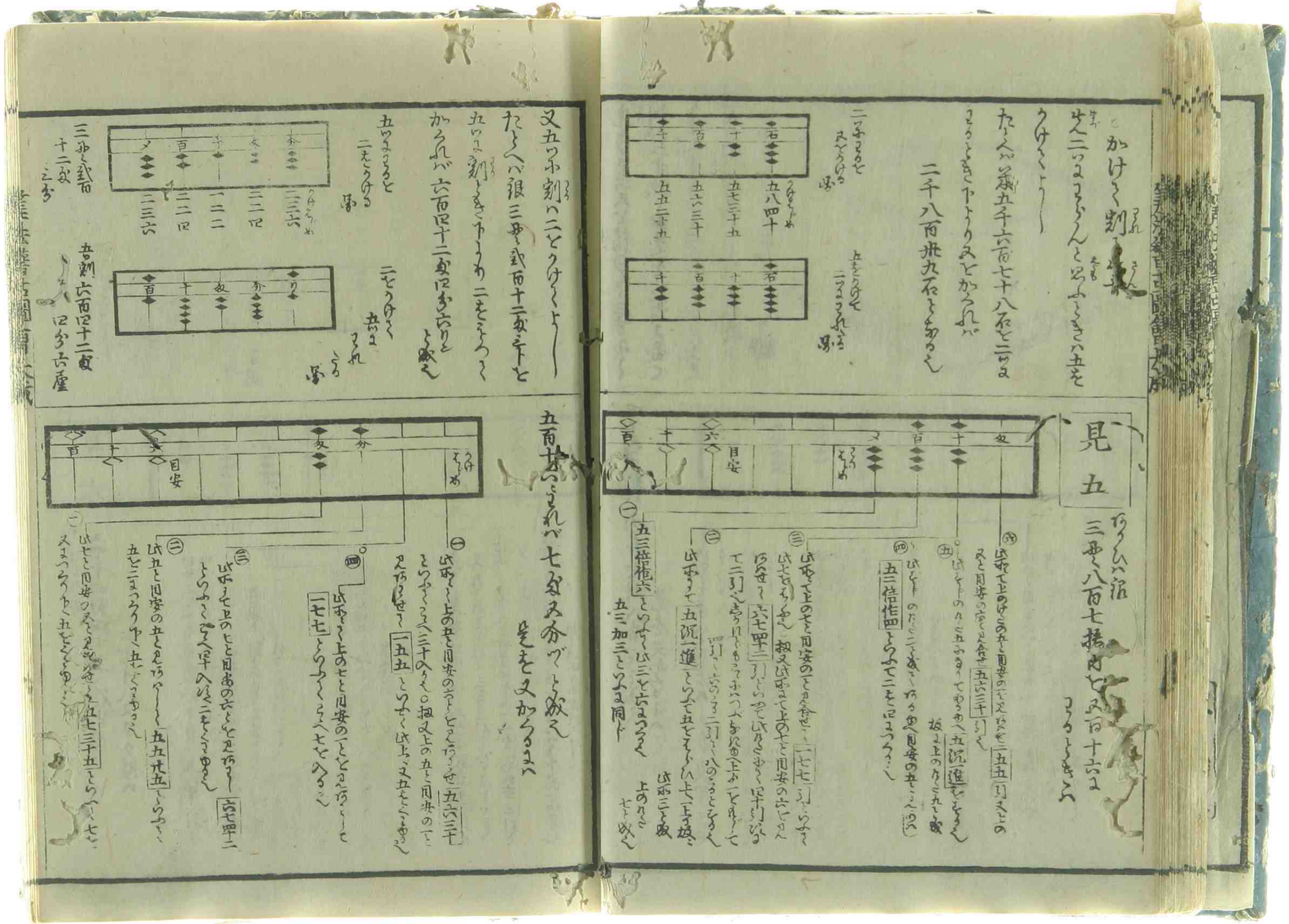


四十五丈ゑ割ば九千七拂八合でとゝ成〻
是を又かゝるゆへ

此ホ〻七上の八と目安の五とゑ合せ五八四十とゝ
ゝへ四十入ゝ
此八と目安の四とゑ合せ四八卅二とゝて八ゝ三ホ
ゝゝ三ゝ成〻。扨又此ホまて上のゝゝ目安の
五とゑ合せ五七卅五
とゝ七とゝへ三十入ゝ
此七と目安の四とゑ合せ
四七廿八とゝ七ゝ二ゝ
ゝゝ八と入ゝ
扨又此ホ〻〻上の九と目安の五と
ゑ合せて五九四十五とゝ
四十入ゝ五ゝ

此九と目安の四とゑ合せ四九三十六とゝ
九ゝ三ゝゝゝ六をくゝゝ
ゝけゝのれば又九の四千四百ゝ成〻

長崎大学附属図書館経済学部分館　武藤文庫所蔵



長崎大学附属図書館経済学部分館　武藤文庫所蔵

又廿五の割い

下にあり巳とうけてこう

たとへば大百九千八百十捌六石を

廿九の割 三百九十五石巳弗くし

廿九の割と巳とうけの図

巳六百二十七 巳七百二十八 巳八百二十二 巳九百二十六

廿九まわれる図

又百廿五まるとるれば下にうつる八を

こうりくかうるとこう

見六

六千四百巳十弗七石と

六百七十八まわる時い

目安

千 百 十 石

巳ずつて上の九と目安の八とをたゝり 五八四十 引と

いまくいずつて十引くるあり

巳ずゝ上の九と目安の七とをたゝり

五七卅五 引とのまくるゆく三十引

ひくること引あり

巳ずゝ三ゆ成くたゝり目安の六とをたゝり

六三天卅五 とつゞく三と五まつるあり

故ゝ巳ずゝ五ゆ成くし

巳ずゝくあ九と目安の八とをたゝり 八九七十二 引く

ゆたゝりめ七引くゝ三のゆ三引くゝ八のゆゆとるくし

巳ずゝ上の九と目安の七とをたゝり 七九六十三 引と

いまくゆゆ六十成て三引くし

巳ずゝ目安の六とをたゝり 巳九三天卅九 とつゞく六と九まつるゆ六と九まつるゆ

故ゝ巳ずゝ九ゆ成成のけゝ十ゆ成くし

たとへば六百九十八百七十六石と百廿五ゆ

ゆゆ附い 七十九石八合ゆゆ成くし

百廿五ゆゆとうけの図

百廿五ゆ

千 百 十 石

八九七十二 八八六十四 七八五十六 六八四十八

八とうけの図

百廿五ゆ

千 十 石 斗 廿 合

○又ゆゆりて撰業とるゆとゆゆ

右のゆゆなり

二をかゆるゆい 五まて割べし

五をかゆるゆい 二まて割べし

廿五をかゆるゆい 四まて割べし

百廿五とかゆるゆい八まで割べし

六百七十八ゆ割い 九石五斗ゆゆ成くし

巳を又うけるゆい

百 千 十 石 斗

一 巳ずゝ上の九と目安の八とをたゝり 五八四十 とゝて

ゆゆくゝ十入るくし

二 巳ずゝて上の五と目安の七とをたゝり 五七卅五 とゝて

ゆゆくゝ三十入ゆゝ五入るくし

三 巳ずゝ五と目安の六とをたゝり 五六三十 とゝて五と三

つゝるあり

四 ○扨又巳ずゝ上の九と目安の

八とをたゝり 八九七十二 と

いまて巳ずゝ七十

入ゆゝ二ゆるあり

五 ○扨又巳ずゝて上の九と

目安の七とをたゝり

七九六十三 とゝつゞく

ゆゆくゝ六十入ゆゝ三と

くるくゝあり

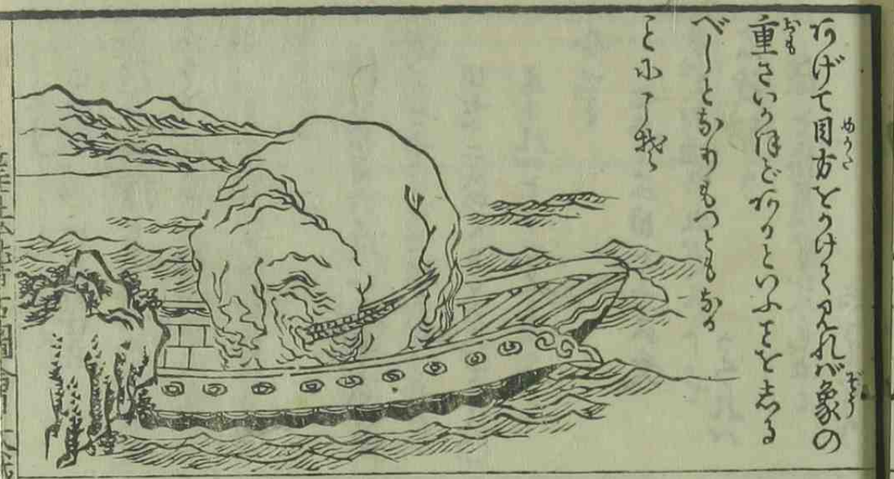
六 巳ずゝと目安の六とをたゝり

六九五十四 とゝつゞく九とゝまつるゆ

ゆゆくゝ巳とくるあり

長崎大学附属図書館経済学部分館　武藤文庫所蔵

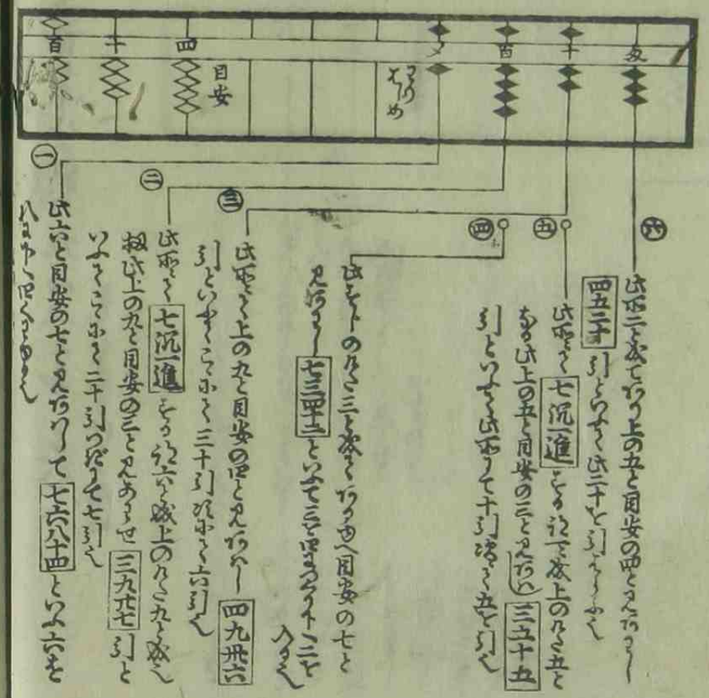
○唐の太常博士蘇頌が説に交趾
潮循の諸列に象拔ほく出とあり
又明の文林郎李時珍も交廣雲
南ゆゑび西域の諸国小出て野象
群をなに灰白の二色にてこれへり
又いろく象の大なるもの身のたけ
數丈高さこれ小かるひ六七丈身
恰好ちるの如しとなり
扨此象の重さを初てむ漢の
武帝の沛子蒼鈴の日象を重
目とをくんと欲せば象を船小のせ
て水小うく舟尨の水へはしり
こゝ而に祀とつけ象とあげく
其ゆゑ又物をつゝてをくの
而ゆで船とつけ丈積こゝ而と



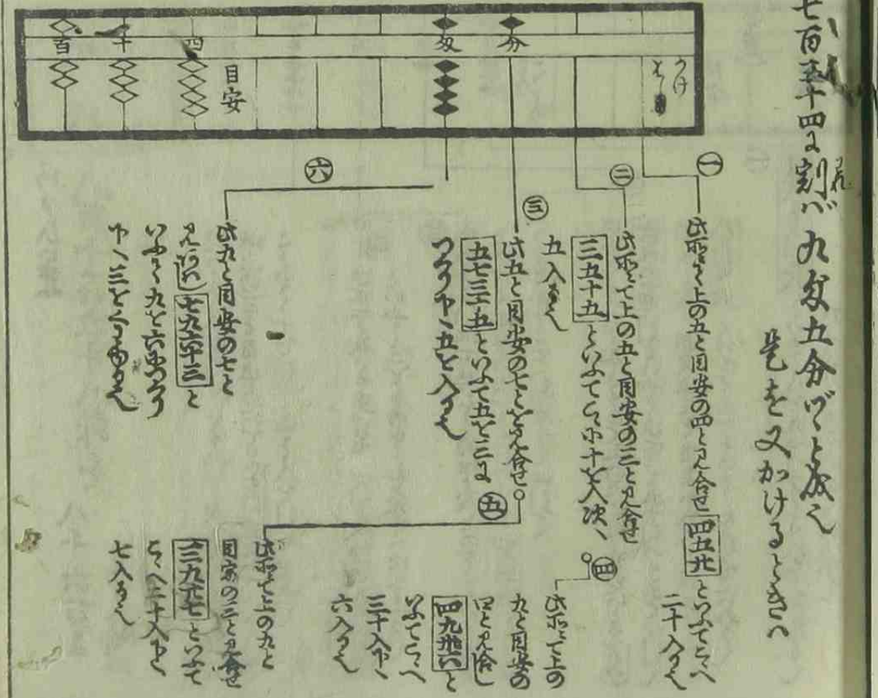
ゆげて目方とうけくれば象の
重さいほどかゝとつふをとをる
べしともかもつともあり
とふこ

見七

ゆゑひの張
六百九百七拾三文を七百三十四文
ゆゑくきへ



七百五十四文割ば九文五分づゝ成く
是を文かけるときへ

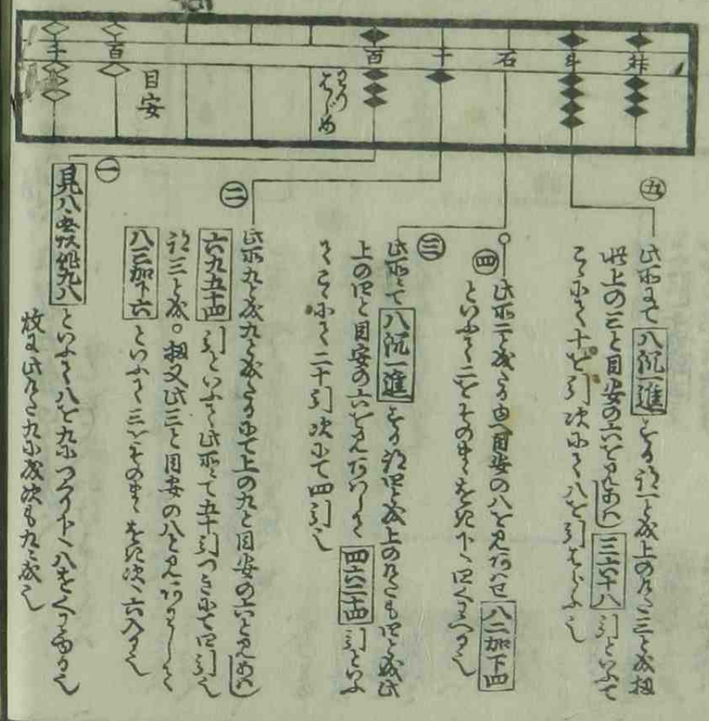


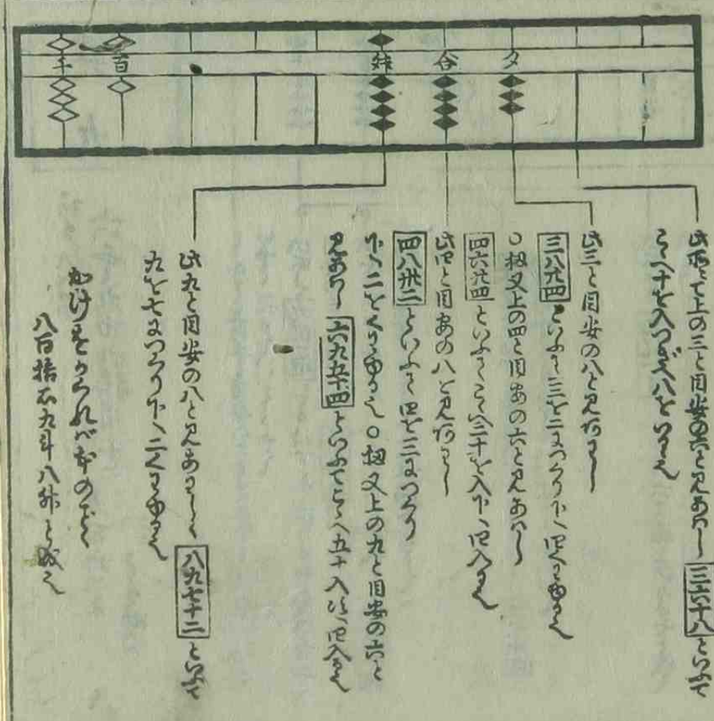
長崎大学附属図書館経済学部分館　武藤文庫所蔵

○錢両替の算

○たとへば銭七貫三百七十二文
ゐる銭を貫文のお切九文めゐ
ゆ〜〜ゑの銭は銀行極りゐる
ぞとうゑ

銀七匁目六厘二毛五と成とゐ
術は七貫三百七匁弐文とをた
ゐ七十二文のえゆと九六とてゐる
ゐるれば七十九文と成く
合せて
七貫三百七十九文
是とお切の九文めゆとを
ゐる銭かゐる
銀七匁目六りと二毛五と
ゐるなり



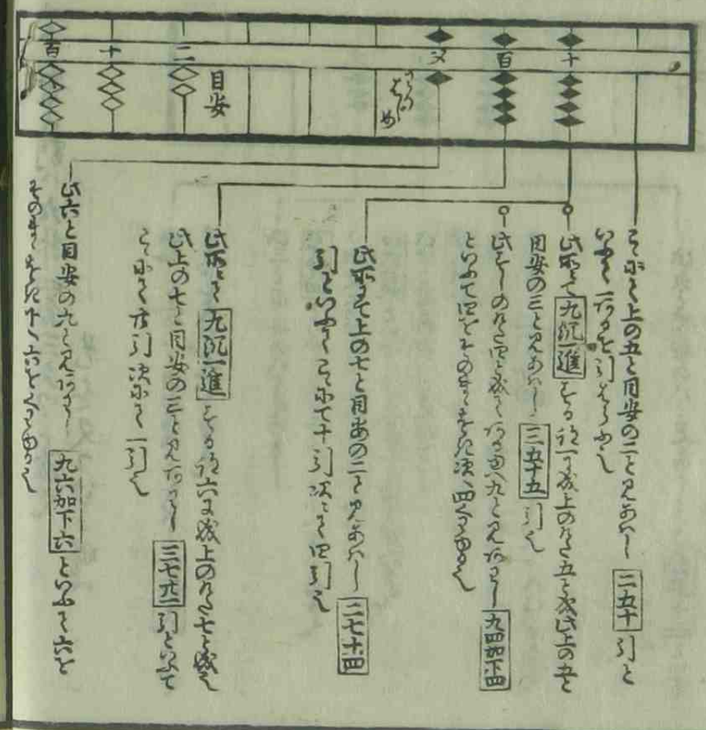


長崎大学附属図書館経済学部分館　武藤文庫所蔵

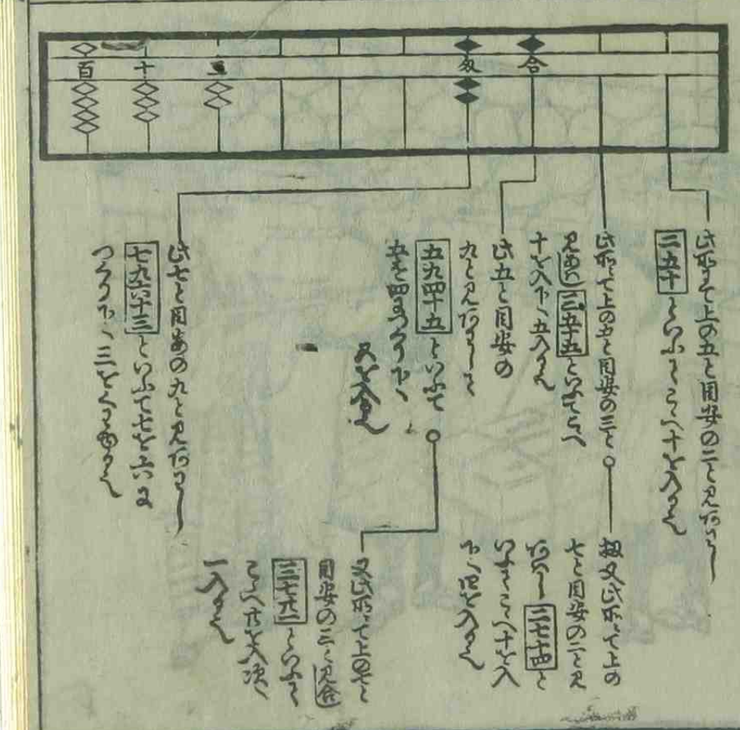
○たとへば銀七拾六匁七ト分
銭を毋文又付九匁又分のお
場ふしとを右の銀と銭を行ほど
ちがうぞいふ
八毋ゝ七拾文とらふ
術ゝ銀七拾六匁七分とを銭
お場のれ匁五分とを刻
八毋ゝ七十三文と成時ハ又
比七十三文のそなるを
九六とかゝれば七十文と
合せゝ
八貫七拾文とまるゝ
七十三文と九六とかゝる算
たのもゝ
よべて銭ゝかい集ふしたよし

見九

九百卅二匁
六毋ゝ九百九拾四を
九百卅二匁
ゝの時ハ



比ゝ上の五と目安の二とをあゝ
ゝ二十引とゝ
比ゝて九匁一進とゝ成上のゝ五と成比上の
目安の三とをあゝ三十五引ゝ
比ゝ上のゝとゝ成ゝゝ九とをあゝ九四四下四
とゝふて比ゝとのゝ毋ゝ九とをあゝ四ゝゝ
比ゝて上の七と目安の二とをあゝ二十四
引とゝふゝゝて十引成ゝて比引ゝ
比ゝゝ九匁一進とゝ九六ゝ成上のゝ七と成ゝ
比上の七と目安の三とをあゝ三七六引とゝふて
ゝふゝ方引成ゝ一引ゝ
比六と目安の九とをあゝ九六加下六とゝふゝ六と
そのまゝ毋ゝ六とゝゝ

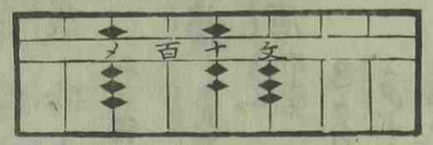


九百卅二文割ば
七匁五分ゝ成ゝ
毋と文ゝ成ゝ

比ゝて上の五と目安の二とをあゝ
三十五ゝとふゝゝ十と入ゝ
比ゝて上の毋と目安の三とをあゝ
三十五とゝふゝゝ十と入ゝ
比五と目安の
九とをあゝ
五九四十五とゝふて
六を四ゝゝ
又比ゝて上のゝ
目安の二ゝ
三十五ゝとゝふゝ
比ゝ比ゝ入ゝ
比七と目安の九とをあゝ
七九六十三とゝふて七と六を
つゝゝゝ三とゝゝ

又比ゝて上のゝ
目安の三ゝ
三十五ゝとゝふゝ
比ゝ比ゝ入ゝ
比六と目安の
九とをあゝ
五九四十五とゝふて
六を四ゝゝ

○銭とゝゝゝ銀ふかゆゝとゝゝの
有銭のゝとゝゝゝと九六とゝゝ
文のゝゝお場とかゝゝゝ
○銀とゝゝゝゝ銭をゝふ時ハ有銭と
お場ふゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
九六をゝゝ併紙とまるゝ



三六十八
三九七七。六七四十二
七九六十三
右の通りかゝれば
七拾文とまるゝ

長崎大学附属図書館経済学部分館　武藤文庫所蔵

諸色竹目大畧

日本目　壱竹ニ付　弐百卒目
白目　同　弐百卅目
唐目　同　百六十目
沉香　同　弐百拾目
當飯地黄　川芎　此五種ハ　壱竹ニ付　百八十目ヅヽ
黄蓮　薫陸
辰砂　光明朱　丹

此三種ハそれ西四文ヅヽ

藥　壹西ハ　四文四分の物ヽ

唐物類　壱竹ニ付　百六十目

出うれども貴賞の竹目多おとりて又品ふるうて遠ひなり

和藥類　同　弐百卅目

もろもろのいの多おゝ小ようり弐百六拾目もつて百八拾目もつて又品ふるうて遠ひなり

實綿　同　弐百廿目

拵洗の内多くハ三百目ニ付くこれを三つ目よりの他国ゆくて多く百六拾目ゆ絹ニ付八拾目

茶

ニ付　弐百又拾目
撓茶ハ弐百目ゆ
かりこ茶も弐百目ヽ

烟草　同　百六拾目
他国ゆくハ品ふるうて百八拾目ゆ
但しふるきハ百目ゆ

松茸　同　弐百又拾目
ひろいハ三百目ゆも有ゆ

紅花　同　百　目

○金八十七両ゆ壱ニ付弐百拾目ゆ
ふしてゆの小判ゆ銀八十七両ゆ
銀九百五百六拾八匁ゆ成ゆ
○金八十七両ゆ壱ニ付弐百拾目ゆ
ふしてゆの小判ゆ銀何程ゆ成ゆ

○金八十七両ゆ壱ニ付弐百拾目ゆ
ふしてゆの小判ゆ銀八十七両ゆ
銀九百五百六拾八匁ゆ成ゆ
○金八十七両ゆ壱ニ付弐百拾目ゆ
ふしてゆの小判ゆ銀何程ゆ成ゆ

銀ハ壱ニ付ゆ小判の寸ゆ
かゝれば銀の寸ゆ
○今ハ八百三歩ゆ時ゆ両の代銀百拾目ゆ
ふしてゆの金ふ銀何程ゆ成ゆ

銀ハ壱ニ付ゆ小判の寸ゆ
かゝれば銀の寸ゆ
○今ハ八百三歩ゆ時ゆ両の代銀百拾目ゆ
ふしてゆの金ふ銀何程ゆ成ゆ

銀ハ壱ニ付ゆ小判ゆ銀七百弐拾又ゆ成ゆ
七五ゆ成ゆ
銀ハ壱ニ付ゆ小判ゆ銀七百弐拾又ゆ成ゆ
七五ゆ成ゆ

六拾目ゆ成ゆ
○三歩ゆ
金等用ハ一ゆ壱ニ付ゆ小判ゆ銀七五ゆ成ゆ
金等用ハ一ゆ壱ニ付ゆ小判ゆ銀七五ゆ成ゆ

六拾目ゆ成ゆ
○三歩ゆ
金等用ハ一ゆ壱ニ付ゆ小判ゆ銀七五ゆ成ゆ
金等用ハ一ゆ壱ニ付ゆ小判ゆ銀七五ゆ成ゆ

長崎大学附属図書館経済学部分館　武藤文庫所蔵

鼠算の法

正月小鼠の父母いでゝ子と十二疋うむ親ともに十四疋成るをもつて七つ子ひゝ孫七女まの鼠二月小にそつふゝ又子と十二疋づゝうむ母親子孫しあて九十八疋成る父母又四十九疋ひ小成こは四十九つゞい三月大に又そらふゝ十二づの子と産母子でうりをでふ百八十八疋うまいぶくゝ芝なをやゝとくゝまれば総五百八十六疋ほどうかくのごく月ゝ一度づゝ親も子も孫もひとも十二疋づゝうむとあうちうをもつて年はをもつて十二月小に何程の鼠の数小ありやといふ

十二月小ゝ子せゝ鼠の数

武百七十六億八千二百又十七万四千四百二疋なり

術曰親ゝ二疋ゝ七と十二ゝ度ゝうるれば左の鼠のうるまれるゝ

正月小	うまれゝ子	十二疋
	ちやくもの	十四疋
二月小	うまれゝ子	八十四疋
	ちやくもの	九十八疋
三月小	うまれゝ子	五百八十八疋
	ちやくもの	六百八十六疋
四月小	うまれゝ子	四千百十六疋
	ちやくもの	四千八百二疋
五月小	うまれゝ子	二万八千八百十二疋
	ちやくもの	三万三千六百十四疋

○二歩ハ八五 ○三歩ハ七五 ○壱歩ハ二五

○武歩ハ一二五 ○一歩ハ六二五 かゝのごゝ

○金六両三歩三歩ハ一両ヨつき銀又拾六匁ぐゝ小して左の小判ヨ銀何程小なるとゝ

銀三百八拾八匁又分ヨ銀とゝ

答ハ七五ゝ 三歩ハ七五ゝ 三歩ハ十六匁の数

一八七五ゝ 金壱ゝ三歩三歩の数九三七五ゝ故ヨ

六両九三七五をお場の五拾六匁とかゝれば左の銀なるゝ

○銀壱貫六百弐拾又匁ゝ金壱両のお場六拾

四匁小ゝ銀何程小なるとゝ

答ハ金廿五両壱歩弐朱と銀壱ゝ匁

術曰銀壱貫六百匁ヨ金のお場六拾匁ヨ引て剰

壱歩ハ二五ゝ故ヨ四つ小ゝ分て其数ヨ定むゝ

四つ小剰ゝる数左小紀ゝ常小定ゝ壱ゝべし

二九五〇六二五ヨ又武二五ハ剰ち金廿五両ゝ次ヨ三九。

六二五ゝ分ゝ時小壱歩の弐朱のゝゞ三七五ヨ三九の間ヨ引ゝ

（壱ハ一歩ハ二五 弐朱ハ一二五 金ハ一分ゝ）

お場六十匁ヨ又とかゝれば壱歩弐朱ト銀壱ゝ匁ヨ定ゝ

長崎大学附属図書館経済学部分館　武藤文庫所蔵

六月小
生る子 廿一万今千六百八十四疋
親る糸 廿三万五千二百九十八疋

七月小
生る子 百四十一万千七百八十疋
親る糸 百六十四万七千今八十六疋

八月小
生る子 九百八十八万二千五百十六疋
親る糸 千百五十二万九千六百今二疋

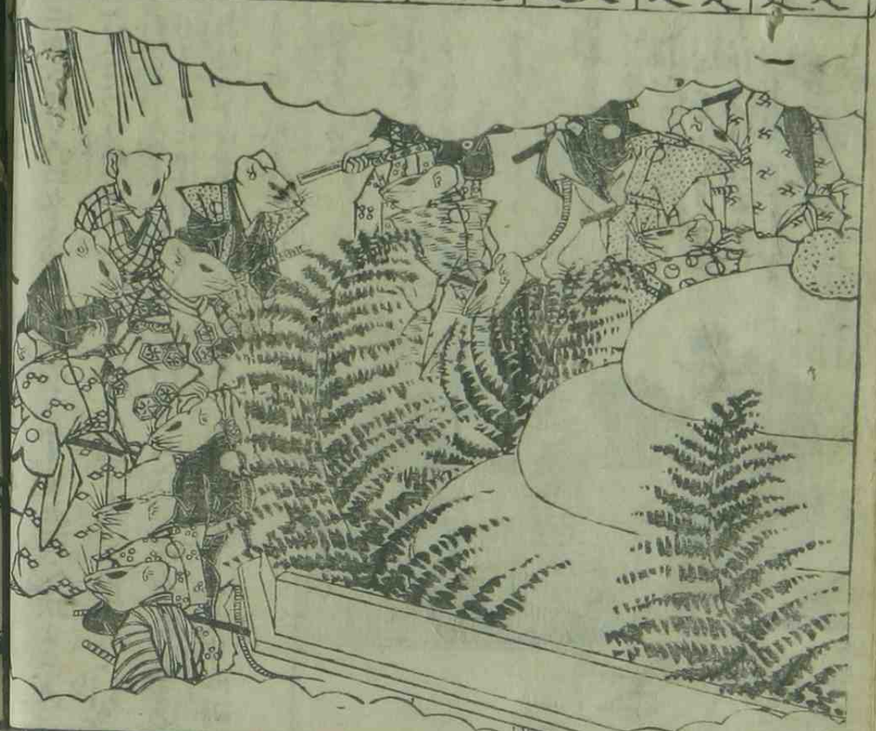
九月小
生る子 六千九百七万七千六百十二疋
親る糸 八千今七十万今七千二百十四疋

十月小
生る子 四億七百九十五万三千百八十四疋
親る糸 五億六千四百九十五万今四百九疋

十一月小
生る子 五億六千九百七十万今二千九百八十六疋
親る糸 九億五千四百六十五万三千四百八十六疋

十二月小
生る子 二億七千七百五十九万今九百七十疋
親る糸 二億六億七百五十四万四百今疋

又在の鼠尾なくひつきくして海に流る



ときに七十八万八千六百七十七里十二町八すとふ鼠の長さ四すとたて巾とかろれば十き億。七百三十万。二千九百七十六疋。八すと成られと六天又すふく別べ十七億。二百又十四万三千。四十百八すと成巾と二町の六十間ふく別へ弐千八百三十九万二千三百八十四町八すと成これを又一里の町数三十六町ふて別べ七十八万八千六百七十七里十二町八すと成。又天の二百七十六億八千二百五拾七万四千百今二疋ゆ鼠一日よ米ま呑ぐ人稼ゆ一日の米乃こひる米千三百八十四万千二百八十七石

武士き食くひはくをく

長崎大学附属図書館経済学部分館　武藤文庫所蔵

○諸物輕重の積

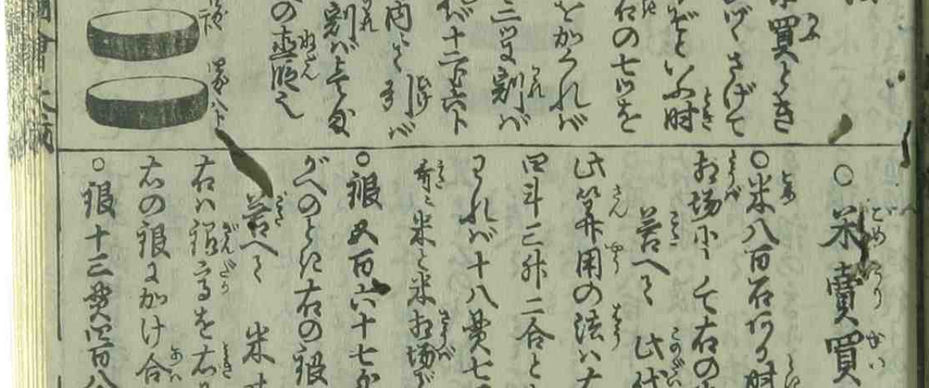
一寸四方 重サ

金	同	百五十目 百四十六匁
銀	同	百二十目 百十五匁
鉄	同	五十五匁
銅	同	六十五匁 六十匁
鉛	同	九十目 八十目
錫	同	五十目
真鍮	同	六十目
荏	同	百二十目
青石	同	廿八匁
檜	同	三匁五分
榧	同	八匁
土	同	壱貫百目

錢相場の時	付百九匹	文	九匁六ト	月	百五文。五二	八匁六ト	月	百六匹	文	九匁六ト	月	百五文。五二	八匁二ト	月	百二文。七三	九匁七ト	月	百二文九六九	八匁三ト	月	百十九文六四二	九匁八ト	月	百三文九四九
割附壹貫文付銀			九匁四ト	月	百十六匁	八匁四ト	月	百十匁二四八	九匁八ト	月	百四文九四八	八匁八ト	月	百十六匁九四一	拾匁	月	百匁	作九六〇	八匁六ト	月	百十五匁六四七	九匁六ト	月	百匁九四六
			九匁二ト	月	百十匁二四七	八匁六ト	月	百十五匁三四四	九匁四ト	月	百匁九四五	八匁七ト	月	百十四匁三四四	拾匁二ト	月	九十四匁五四五		八匁七ト	月	百十四匁三四四	拾匁二ト	月	九十五匁〇四九
			九匁二ト	月	百十匁二四七	八匁八ト	月	百十匁〇九	拾匁二ト	月	九十三匁二四	八匁八ト	月	百十匁〇九	拾匁二ト	月	九十三匁二四		八匁八ト	月	百十匁〇九	拾匁二ト	月	九十三匁二四
			九匁四ト	月	百十匁二四七	八匁九ト	月	百十匁八四五	拾匁四ト	月	九十二匁三四七	八匁九ト	月	百十匁八四五	拾匁四ト	月	九十二匁三四七		八匁九ト	月	百十匁八四五	拾匁四ト	月	九十二匁三四七
			九	匁	月	百拾匁〇六四六	九匁六ト	月	九十一匁四四一	拾匁六ト	月	九十匁四四一	九匁六ト	月	百拾匁〇六四六	拾匁六ト	月	九十一匁四四一		九匁六ト	月	百拾匁〇六四六	拾匁六ト	月	九十匁四四一
			九匁四ト	月	百九匁四四九	九匁四ト	月	百九匁四四九	拾匁六ト	月	九十匁四四九	九匁四ト	月	百九匁四四九	拾匁六ト	月	九十匁四四九		九匁四ト	月	百九匁四四九	拾匁六ト	月	九十匁四四九
			九匁二ト	月	百八匁三四七	九匁二ト	月	百八匁三四七	拾匁七ト	月	八十九匁七四二	九匁二ト	月	百八匁三四七	拾匁七ト	月	八十九匁七四二		九匁二ト	月	百八匁三四七	拾匁七ト	月	八十九匁七四二
			九匁二ト	月	百七匁二四六	九匁二ト	月	百七匁二四六	拾匁八ト	月	八十八匁八四八	九匁二ト	月	百七匁二四六	拾匁八ト	月	八十八匁八四八		九匁二ト	月	百七匁二四六	拾匁八ト	月	八十八匁八四八
			九匁四ト	月	百六匁二四七	九匁四ト	月	百六匁二四七	拾匁八ト	月	八十八匁〇七三	九匁四ト	月	百六匁二四七	拾匁八ト	月	八十八匁〇七三		九匁四ト	月	百六匁二四七	拾匁八ト	月	八十八匁〇七三

○入子箕の法

七つ入子を拵て一番小買ふとき入子一つも付ず五匁六分づゝさげておのゝ拵ほどふりかぶせいの時先七つとたゝ右の七つを一つ引六つもしてたの七とかゝれば六七四十二とあり四十二を二つ割ば廿二匁先小六とかゝれば十二匁六ト〇あり先と右の廿匁の内さくまば八匁四ト残り先と七つ割ば十匁二ト残る此二ト〇と云先刻入子の上の五匁〇



○米賣買之箕

○米八百石ある時拵かゝつき米四斗三升二合のお場小〇右の米代何ほどぞふるいよ

答へ〜 代拾八匁七百五拾四匁とあり

此算用の法は右の米八百拾石を先たゝお場の四斗三升二合〜右の米を四斗三升二合〜つれば十八匁七百五拾四匁とあり〜

米〜米お場で割ばかゝる故の稼とかゝればお場故なり

○銀五百六十七匁五ト〇拾匁を付米四斗三升弐合べのゝ右の銀は米何程とかゝるぞとゝよ

答へ〜 米十四石五斗六合ありとゝよ

右は銀を右の四斗三升六合ありとゝよ

右の銀をかけ合ればとたゝお場四斗三升二合を先

○銀十二匁八百八十匁二ト五厘を石に直せば

長崎大学附属図書館経済学部分館　武藤文庫所蔵

○又八つ入子を拵ひ十三文二下ゝ度
ゝき米の入子何ほとふかるとゝ
八ゝ合せゝ拵ひ十三文武トもれバ先
たゞ一二三ゝ又六七八ゝれと合せゝ
三十六ゝあられふて四十文武トと
割ハ米の長代を文二トともゝく

○人を弟子小積る法
或人ゝが弟と弟数をつゝりて
たべといふゝろ人ゝりとてゝがゝ
水風呂桶とゝかいゝ水一ゝ入
入丈人といゝゝ相ゝ段階呂

十三文七トあり之へふゝして右の拵ハいゝ極ゞといふ
養へゝ 米五百六十七石八斗ちゝといふ
ゝれハ右ゝ拵十三度ゝ拵ハ八十又文二下五ゝたゞお場の
廿二文七トあり之ゝ拵ゝ拵ゝ割ハ米の言ゝ拵と極ゝ
新ゝ拵ゝかゝお場ゝ割ハ米ゝ言ゝ拵ゝ米ゝ拵ゝれハ拵ゝ
○米二千八百七十又右ゝ代代拵七拾三度六百目也ゝれハ
米ゝ右の代銀ゝ拵ゝ極ゝ右ゝ付 武拵又文六トゞゝ
養へゝ ゝ右ゝ付 武拵又文六トゞゝ
ゝれハ米の二ゝ言ゝ拵ゝ拵ゝれハ拵ゝ
○米二千八百七十五右ゝ代代拵七十三度六百目ゝり
右の米ハ拵ゝ付米ゝ拵ゝ極ゝ
養へゝ 拵ゝ付三斗九升六夕二才五撮ゝと云
ゝれハ拵の言ゝ米ゝ言ゝれハ拵ゝ
○拵ゝ米三斗九升六夕二才五撮ゞの附ハ一石の
出ゝ何程ゝ成ゝと

よゝりゝゝゝゝゝゝゝ
弟小ゝ風呂小一盃ゝ
てかゝり入る時二斗一升又食入ゝ
刈長方の弟体升数ゝ拵ゝて
二斗 一升又合ゝと云ゝ

養へゝ ゝ右ゝつき拵ゝ
ゝれハ右小一石ゝ
ゝれハ右ゝ八百拵石と畳お場二石又斗ゝ
二ゝ四ゝ成ゝ代の間を二又と一歩ゝゝ引拵ゝ
金お場の六拵目とかゝれハ九文ゝ
○金三拵二両ゝ歩ゝ拵九文ゝ
二石又斗ゝ米八百拵石ゝ
養へゝ
ゝれハ右ゝ拵武両ゝ歩ゝ
ゝれハ右ゝ拵武両ゝ歩ゝ
小ゝ一歩ゝ二五ゝ又ゝ金お場の六拵
○米八百拵石ゝ
ゝれハ右ゝ拵十三ゝ
ゝれハ右ゝ拵武両ゝ歩ゝ
ゝれハ右ゝ拵武両ゝ歩ゝ
ゝれハ右ゝ拵武両ゝ歩